

令和6年度第2回(通算第4回)リハビリテーション委員会議事録

日時: 令和6年6月5日 19:00～

場所: オンライン開催

出席者: 鈴木郁子・高塩純一・金子断行・榎勢道彦・大嶋志穂・小玉武志・栗原まな・武藤茜・佐藤匠・虫明千恵子・郷間英世・木下裕俊・岸本光夫・宮地知美・濱田 恵里子・平野大輔・小林健哉・豊田隆茂・池上陽子・岩島千鶴子・西島和秀・谷口敬道・黒川洋明・松山英知・橋本悟・中村達也

書記: 武藤茜・虫明千恵子

** 自己紹介プレゼン

OT 岸本

重心セラピストとしての40年

1980年聖母整肢園に入職、地域の木工所と座位保持具の技術開発

座れる椅子があれば子どもの生活は変わる

1989年に座位保持装置の制度化 シカゴのピンドットでモールド型座位保持装置作成開始

2001年ごろより開発途上国での椅子作り開始、技術伝達

介護のしやすさで24時間姿勢ケアの効果を実感

フィールドワーク: 重症児者の反応(行動)様式

分かりにくい子の理解と療育的意義づけの重要性、関わりやすくする指標の提案(エピソード分析、神経生理学的指標など)

彼らの喜び、遊び、楽しみ、幸せが家族の拠り所 身近な介助者をエンパワーメントする

(二次的な)行動障害がある重症児者の共生のための環境づくり

2011～2019年「重症心身障害のある人の生活を支える作業療法士フォーラム」を開催 リハ委員会と結びつけたい。

私のごめんなさい

- ① 2次障害の予測
- ② 「自前で光り輝く」能力に気づけず「この子らを世の光に」ができなかった
- ③ 重心だからこそ重視すべきライフステージがある大切な時間を浪費させた

OTに求められている役割・課題:

生活環境へのアプローチ、反応の分かりにくい子の理解と周囲の支援、感覚認知行動特性(含む行動障害)と生活活動支援

* OT 平野

実習で重心を担当後 2004 年になす療育園に入職、応答性に興味を持つ

- ・演歌や眼鏡着用で脳血流量増加、スタッフで効果を共有
- ・スイッチで上肢活動、12 週間でリーチが可能
- ・アイトラッキングで顔やキャラクターの動きの追視

応答性の可視化

目標や介入計画の裏付けのため、観察＝事実に対する客観的裏付けが欲しい

高嶋幸男先生 2014 重症心身障害の脳を理解しリハビリテーション療育を行う

OT は 10 万人弱で 20 代が多く、小児は 2～4%

PT 岸本コメント: 実用的な研究、療育の根拠となればよい

**** 全体会議(各部報告)**

* 医師(木下)

学会会期中、毎年委員会報告が出来るといい

5 年計画など大きなテーマ設定

委員へのアンケートの検討

* PT(榎勢)

シンポジウムではハンドリングやタッチを通して姿勢、運動、呼吸を評価

ことばにしにくい評価をディスカッションで詰める

* OT(岸本)

本日の発表を踏まえ現在考えている事や取り組みを挙げた

メンバーの長年の経験や取り組みを通して若い OT へのメッセージを発信したい

* ST(虫明)

言語コミュニケーションや摂食嚥下に取り組んでいる

メンバーのやっている事に少しずつ違いがある事がわかった

* 心理(郷間)

夏にアンケート調査を実施し、結果を今回のテーマと合わせて話したい

学会会期中に心理職が集まる場を設けたい→抄録に案内記載

**** その他**

検討事項: 11 月の学会で委員会メンバーの顔合わせ

今後毎年シンポジウムを組む

5 年計画の提出

6月17日の理事会では研究費の捻出や倫理委員会について検討予定

理事会で検討希望内容や今後のアイデアは Dr.鈴木へ連絡

次回は、2024年8月7日(水)19:00 ⇒会議後8月21日(水)同刻に変更

自己紹介プレゼン担当: 虫明・濱田

今後の自己紹介プレゼン予定(2名ずつ実施)

8月:ST、10月:心理、12月:医師、2025年2月:PT、4月:OT、6月:ST、8月:心理